楽しく体動かす

倉敷・福田公園　オリエンテーリング体感

地図とコンパスを手に、チェックポイントを回る野外スポーツ「オリエンテーリング」。県内でも大会や初心者向けの講座が各地で開催されている。その魅力を体感しようと、2月に水島緑地福田公園（倉敷市福田町古新田）で開かれたパークオリエンテーリングの個人初心者向けコースに参加した。（大江恵里奈）

地図を手にゴールを目指す家族連れ

頭働かせポイント巡る

初心者コースに加わった。オリエンテーリングは小学校の自然学習以来、十数年ぶり。同公園も中学生当時に訪れた程度。「カーナビ頼りで地図が読めない」ことを自認する身としては、無事にゴールできるか不安を抱えながらスタートを切った。

■

コースは2・2キロで、ポイント数は18。地図を見てまずはコンパスで方向を確認、近くに見える体育館を目印に最初のチェックポイントへと歩き始めた。

地図にはポイントのヒントも記載されていた。「植え込み　南の角」。自分のいる地点を地図で押さえながら進むと「あった」。他の参加者が走っているのを見て、負けじと足を速める。なるべく最短距離で移動できるよう、舗装されていない植え込みの間を歩いた。

地図には体育館やテニスコートなど施設名の記載はないため、1～18までの数字が記された位置と「小さなこぶ」「フェンス西の角」といったヒントを頼りにポイントをクリア。43分5秒のタイムでゴールした。初心者コースとあって思ったよりはスムーズだったが、優勝者の18分2秒には到底及ばなかった。

■

オリエンテーリングは19世紀後半、欧州で軍のトレーニングとして行われたのが発端とされ、競技としてはノルウェーで始まった。日本では1960年代以降に主に体力づくりやレクリエーションの一環として徐々に普及した。

「地図を見て、どんなルートを通るか自分で決められるのがおもしろい。走力だけでは優勝できない」と県オリエンテーリング協会の佐藤旭一理事長。家族4人で参加した倉敷市茶屋町、会社員肥和田弘幸さん(48)も「楽しく体を動かせる。みんなで協力し絆も深まる」と笑顔を見せた。

頭を働かせながら、体を動かす知的スポーツ。家族連れはもちろん、運動の苦手な人でも楽しめる競技だと感じた。

公園全域に設置された「コントロール」と呼ばれるチェックポイントを順に回り、ゴールまでのタイムを競う―これが競技の主なルール。所持した電子カードをコントロールにはめ込むことでポイントをクリアしたと認められ、ゴールまでのタイムも計測される。

この日は約60人が個人、グループの部でそれぞれ経験者、初心者向けに分かれて挑戦。個人参加の記者は

大会で使用した初心者コースの地図

次回は9日に神郷で　県協会

県オリエンテーリング協会は年間10回程度の大会・講座を実施。次回は9日午後1時～4時、新見市神郷下神代の県健康の森で初心者講座を開く。事前申し込みは不要で、参加費は一般500円、中学生以下200円。

4月21日には笠岡市白石島で「第32回県笠岡市オリエンテーリング大会」を実施。同13日までに申し込むと参加費は一般800円、小中学生300円。当日参加は一般1100円、小中学生400円。同協会のホームページでも紹介している。問い合わせは同協会事務局（086―428―3732）。